



道徳だより

6



5 / 18 (火)

「十さいのプレゼント」の授業から

「形のないもののもつ素晴らしさに気付き、それらに感動する心を大切にしていこう。」というねらいで授業を行いました。教科書のお話「十さいのプレゼント」を読んで、自然のもつ美しさや家族の愛情といった「形のないプレゼント」のよさについて考えました。子どもたちは、十歳になった娘のあやを早朝登山に誘い、山頂からの美しい日の出の風景を誕生日プレゼントとして見せたお父さんの気持ちと、その風景を見たあやの気持ちを考えました。「お父さんが、あやにプレゼントしたかったものは何か」「なぜ形に残るものではなく、この景色だったのか」「なぜ“十歳”のプレゼントなのか」。「あやはこのプレゼントを貰って嬉しかったのだろうか」。様々な意見を出し合い、自然の風景や親の愛情といったもののもつ、形のないものだからこその素晴らしさについて考えることを通して、それらを感じ取り、感動する心をもつことの大切さに気付いていました。終末では、子どもたちは、「形のないプレゼントは触ったりできないけど、ずっと壊れないし、いつまでも心に残るよ」「形は無くても、ずっと心に残るものって素敵だな」「自分も自分の大切な人にこんなプレゼントをしてみたい」など、自分の生活と重ねながら熱心に考えていました。



